

第2回岡山市における公立夜間中学の在り方検討会における主要な意見

- 1 日 時 令和4年11月10日(木) 午後6時から午後7時49分まで
- 2 場 所 勤労者福祉センター 4階大会議室
- 3 出席者 委員 9名
- 4 議 題 岡山市における公立夜間中学の在り方について
- 5 主な意見

[目指す学校像]

- ・ 挑戦ということで、もう一度という想いをもってくれればいいと思う。
- ・ 挑戦という言葉は、悩んで入学してくる人に使う言葉ではないと思う。
- ・ 安心して学ぶ場であるということは一つの方向性として合意できるのではないかな。2行になってもいい。

[入学対象者]

- ・ 高校を卒業していない人を対象者に記載しているのは、全国では、40校中1校である。
- ・ 高校の卒業が認定されたということは、中学校の学び直しも含んでいる。
- ・ 当然視していることなら、あえて入れなくていいのではという考えもあるし、入っていても同じという考えもある。ない方がいいという意見もある中、あえて入れるのかどうかを検討してほしい。
- ・ 不登校特例校を検討してほしい。

[入学時期]

- ・ 4月から10月までの随時入学を認めることが最も現実的だと思う。

[修業年限]

- ・ 6年くらいのほうが生徒も見通しが立つのではないかな。
- ・ 無戸籍の人や障害のある人などは6年では足りない。

[学校給食]

- ・ アレルギー、異物混入、調理など問題が多く難しいのではないかな。
- ・ 10代の子はそんなに来ないと想定されるので、常識的な範囲で十分対応できるのではないかな。
- ・ 負担の問題や市民感情の問題もある。記載するかどうか検討してほしい。

[教育課程]

- ・ 個別学習と学び合い学習のバランスをどうとっていくかが大きな問題である。

[学級編成]

- ・ 1学級40人が懸念される。多様な支援が必要で抱えきれないのではないかな。
- ・ トータルの受入人数を示すべきではないかな。
- ・ 1学級40人は原則で、昼間の学校でもこれまできめ細かく支援を行っている実績がある。

[日本語での教科学習に不安がある生徒への対応]

- ・ 外国籍の人の受入態勢をお願いしたい。
- ・ 日本語の支援は必要だが、中学校の学習指導要領の内容に関する教育が主になるべきである。

[支援体制]

- ・ 教員だけでなく、様々な人たちと体制をつくる必要がある。
- ・ 外部組織と連携してオール岡山で支えてほしい。そのために情報発信を積極的にお願いしたい。
- ・ 心のケアとして、養護教諭の配置が重要である。

[開設時期]

- ・ 2025年4月開校になる理由を見える化してほしい。